

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100618		
法人名	社会福祉法人 広和会		
事業所名	グループホーム ほのぼの青葉	ユニット名	貳番館
所在地	宮崎市宮崎駅東3丁目9番1号		
自己評価作成日	令和2年7月15日	評価結果市町村受理日	令和2年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">https://www.kaiogkensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和2年8月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設が宮崎駅近くであり、交通の便も良くスーパー等も近隣に多数あることから生活しやすい。法人内には、介護老人福祉施設やサービス等があり、それぞれと協力体制が整っている。また、敷地内にはクリニック及び薬局があり、姉妹法人に医療機関や介護施設が併設されている関係上、医療と介護の連携は密に図れている。  
建物は4階建ての4階部分にあり、日当たりも良く、館内全てがバリアフリーで各居室も広くゆったりと生活できる。  
壹番館と貳番館のユニットの区別はあるものの、職員、利用者共々行き来しやすい環境にあり、毎月の行事も季節感を感じられるように工夫をしながら合同で行うなど楽しく交流ができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉法人を母体とする事業所は4階建ての4階部分に位置し、階下には、介護老人福祉施設やデイサービス等がある。また、同敷地内に整形外科・内科のクリニックも併設されて、医療と介護の連携を取りやすくしている。近年、利用者や、家族から重度化した場合の取組を要望される傾向があるため、関係者で話し合いを持ち、重度化指針を作成し医療連携を取りながら利用者家族の意向に対応するよう取り組んでいる。さらに自治会に加入し地域住民と相互交流に努めている。災害時の福祉避難所として市と締結をしており行政との協力関係の構築に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は掲げていない。法人(広和会)の理念は事業所内に1か所のみ掲示となっており意識は薄い。	法人の理念は事業所内に一か所のみ掲示されているがグループホーム独自の理念を作り上げて、掲げるまでに至っていない。	管理者とケアに携わる関係者で話し合いを持ち、ホーム独自の理念を作り上げて、その理念を共有・実践してサービスの質向上に繋げることを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、管理者を中心に地域の方と交流を図っている。行事の内容によっては、ボランティアとして参加していただき交流の機会もあるが日常的には少ない。	自治会に加入し、自治会が主催する会議や清掃活動など管理者や職員が参加している。地域から習字やコーラスなどボランティア活動を受け入れ地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人建物内に「地域交流センター」があり、研修会や生け花展を通じ地域の方の受け入れを行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、その中で事業所の状況や活動内容を報告し、話し合いを行っている。開催できない場合は、文書をもって報告を行いアンケート形式でご意見をいただいている。	2か月に1回、地域の有識者や家族、地域包括支援センター職員が参加して開催している。事業所からは活動内容の報告や話し合いをして、そこでの意見をサービスの質の向上に生かすよう取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者を中心に連携を密に図っている。日常的にも提出書類関係や不明な点など積極的に連絡を入れるようにしており、協力関係を築いている。また、災害時の避難場所として宮崎市と締結を行っている。	市の主催する研修会等に参加したり、災害時の福祉事業所として市と集結するなど協力関係の構築に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関の鍵をかけず、自由に行き来できるようにしている。また、法人内で身体拘束委員が設置されている為、研修会に参加したり事業所内でも勉強会を開催し理解を深めている。	法人内で身体拘束委員会を設置して勉強会を開催し、身体拘束の弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、事業所内で勉強会を開催し、学ぶ機会を設けている。不定期にチェックリストを利用し自身の振り返りを行い、分析をし職員全員で取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、制度について学ぶ機会が少なく、活用できるような支援はできていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行っている。制度改定等の際は文書や直接説明を行いご理解をお願いしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議のほか、随時ご意向を伺い確認している。また、エレベータ前に意見箱を設置しており、年に1回はご家族あてにアンケート調査を依頼し、運営に反映できるようにしている。	家族の面会時やサービス担当者会議などにおいて、家族の意見を聞くように努めている。意見や意向については職員全員で話し合い改善して運営に反映させるよう取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	収支を含む運営状況を毎月のミーティング時に意見交換等の機会を設けている。意見や提案があった場合は科長を通じて管理者に伝えている。	毎月一回の職員会議や日常の業務の中で意見や提案を聞く機会を設け、運営に反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に一度、人事考課を行い、必要があればその都度面談の機会を設け、職場環境の整備や改善等に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間計画の基、参加できるようにしている。また、希望があれば法人外の研修にも参加できる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は少ないが、グループホーム連絡協議会に加入しており交流できる。現在は研修そのものがないため、交流できていない。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご相談があった場合、ご本人や家族、その関係者と回数を重ねての面談や電話連絡等を行いながら安心していただけるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族のお話を受け止めながら、困りごとや不安なことは何かを考えながら関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族のお話を伺いながら、事業所としても「できること、できないこと」をお伝えし、必要な支援ができるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人との関係づくりを大切にし、必要な時にはご家族にこれまでの生活歴を伺いながら、なじみの関係になるように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や来訪された時には、お話を伺ったり情報をいただいたりご家族との関係づくりに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族からの話の中でなじみに人や場所の情報を収集しながら会話の中で楽しんだり、またはご家族にお願いしながら関係が途切れないよう支援している。	家族や友人、知人との関係が途切れないように家族の協力を得ながら、電話やパソコンのオンライン等を使い、関係が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握するとともに、相性を考えながら孤立しないように支援している。関わりが難しいような時は、職員が間に入ることにより、楽しめるような環境を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも気軽に相談いただけるよう、利用中から関係性を大切にしており、電話連絡や来訪がある。できる範囲で経過をフォローするように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を聴く機会を設け、把握に努めている。困難な場合はご家族や関係者に話を伺ったり、何気ない言葉でも大事にし、職員全員で情報収集を行い支援に努めている。	日常のケアや会話、表情の中から暮らし方の希望や意向を把握して、家族に相談しながら本人本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの生活歴や関係者からの情報収集を行いながら、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前からの情報収集に努めながら、職員全員で現状の把握に努めている。また、日常的に心身の状態変化があった場合にも職員全員が気づけるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の気づきをその都度話し合えるような環境づくりを行ったり、ご本人やご家族からのご意向をその都度伺うようにしている。居室担当者が毎月評価を行い、現状に即した計画を作成している。	利用者本位の介護計画は、家族・関係者と話し合いを基にそれぞれのアイデアを生かして現状に即したプランを作成している。毎月一回のモニタリングを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録や、日々の変化に伴う記録をその都度パソコンに入力し、関係者全員が情報を共有できる。また、職員間で送りノートを活用し、実践や見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご意向があれば、自費でのマッサージや福祉用具の導入を取り入れたり、他のサービスの提案ができるよう取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が行きたい場所(したい事)がある場合は、ご家族の協力を得ながら楽しむことができるように支援を心がけているが、現在、思うように支援できていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックが協力医療機関として併設されているが、ご本人、ご家族の希望を入所前にお伺いし、お一人お一人それぞれにかかりつけ医がある。また、訪問歯科のご希望も取り入れ、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の意向を大切に、従来からのかかりつけ医との関係を継続して受診できるように支援している。敷地内のクリニック受診や訪問歯科・皮膚科診療も受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医と同様、看護師とも連携ができています。また、同法人内の他の事業所の看護職とは、オンコール体制も整っており、常に相談ができる環境にある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者との情報交換に努め、連携を図っている。また、ご本人やご家族のご意向を取り組む支援をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期に対するご意向を文書にて同意を得ている。心身の状態に変化等があった場合にはその都度話し合う機会を設けている。現在まで終末期支援の経験はないが、日頃からご家族や医療関係者との連携を図っている。	現在まで終末期支援は行っていなかったが利用者、家族の要望もあり、関係者で十分話し合いを持ち、医療関係者と連携して重度化や終末期支援に取り組んでいる。さらに重度化した場合の指針も作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時にはマニュアルを作成しており、それに基づき対応している。すべての職員が実践力を身に付けているかはまだ、不安がある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同法人内の他の事業所と合同で防災訓練を実施したり、備蓄品の把握も定期的に行い、地域との協力体制も築いている。	年2回、夜間想定を含む防災避難訓練を、同法人の事業所と地域住民も参加して合同で実施している。非常用備蓄品も整え、災害対策に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の人事考課の重点目標を接遇におき、施設内研修も取り入れている。普段から丁寧な言葉遣いや対応ができるように全職員で心がけており、事業所内で勉強会を開催したり実践している。	人事考課に接遇を取り入れ、施設内や事業所内で勉強会を開催し、一人ひとりの人格を尊重した誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日課の中で自己決定ができるように、説明と同意を得ながら支援している。また、思いや希望の意思表示がしやすいように声掛けを工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中で、毎日同じではなく、一人一人のペースで過ごしていただけるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にはその人に合わせた身だしなみを支援している。衣類の選択時には一緒に選んだり、入浴後等には希望に沿った支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、厨房からセットされた状態で提供される。季節感のあるメニューや1年に1度は嗜好調査も実施される。また、毎食、職員と一緒に食器洗いを行ったりおしぼりづくりをしている。行事の中では調理や盛り付け等ができるように計画を立てている。	利用者が咀嚼しやすいソフト食が提供されている。行事のある時はお菓子やお好み焼き等をつくるなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって献立を提供している。摂取量はチェック表で管理、把握を行い、その人に応じた捕食等をご家族にお願いしている。その時の状態に応じ、かかりつけ医にも相談している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に応じた口腔ケアを実施している。また、訪問歯科時に医師や歯科衛生士からもアドバイスをいただいて実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人お一人の排泄パターンを職員全員で把握し、ケアを行っている。オムツ使用の減少には至らないが、種類の変更を検討したり、声掛けの工夫をしたりと支援をしている。	排泄チェック表を活用して一人ひとりに応じて出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に応じた便秘予防や影響に対し、職員全員で話し合う機会を設け、体操を取り入れたり、水分摂取量を分析したりと工夫し取り組んでいる。また、かかりつけ医やご家族に相談しながら服薬での排便コントロールも検討している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は日課として決まっているが、一人一人にその都度ご意向を確認しながら、時間をずらしたり、入浴剤を用いる等の工夫をしながら支援している。	利用者の体調を見ながら声掛けして、気持ち良く入浴できるように入浴剤を用いる等の工夫をして支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に沿った睡眠時間を把握し、昼寝の習慣のある方には昼夜逆転にならないように配慮しながら支援している。また、夜間眠れないような時にもその都度安心できるような声掛けを工夫しながら支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬に関しては、薬情に基づき内容の把握に努めている。状態の変化に伴う服薬の変更時には、かかりつけ医との連携を図り、職員全員で経過観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日1回は好きな飲み物の希望を伺い、飲んでいただいたり、掃除等の家事、散歩や花植えをその人に応じた楽しみ事を把握し支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣にはスーパーがあり、職員と一緒に買い物に出かけたり、ご家族と外食に行かれたりと協力をお願いしながら支援してきたが、今年に入っては実践できていない。	普段は近隣のスーパーに職員と一緒に買い物に出かけたり、家族の協力のもとに外食に行ったりと外出支援を行っていた。感染症予防のため、現在は事業所の屋上を活用しての散歩を取り入れている。		



自己	外部	項目	自己評価	貳番館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方がに財布を持たれ少額を所持されている。基本的には金銭をお預かりすることはないが、必要な際はご家族と相談しながらその都度支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からご希望があれば電話をされたり、季節の便りや年賀状等をご家族に送付できるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に季節感のある飾りつけをしたり、浴室には暖簾をかけたり雰囲気づくりを工夫している。また、空調管理も1日3回の記録を残すようになっており、居心地のよい共有空間を心がけている。	共用の空間は採光や、空調管理にも配慮するよう努めている。利用者と職員と一緒に作った天の川の作品などが要所に飾られて、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席とは別に、ソファを置いてくつろげる場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみの家具や置物を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真を飾ったりと工夫をしている。必要なものが生じたら、その都度ご家族と相談しながらご協力をお願いしている。	家族の協力を得ながら、利用者がこれまでに使い慣れた家具やソファが持ち込まれている。家族の写真などが飾られて利用者が安心して過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有空間にはカレンダー、時計の設置をしている。トイレ等の場所がわかるように張り紙をしたり、手すりが設置されていたり、ご自身でトイレに行かれる方で、転倒のリスクがある方には、センサーマットを利用する等、安全にも配慮している。			